

日 時：平成 25 年 11 月 19 日(火) 18:00～20:30

場 所：建築士会 会議室

出席者:(担当副会長) 長田 喜樹

(委 員 長) 金子 修司

(副委員長) 山成 芳直

(委 員) 石井 明、加藤 清、加藤 高明、嵯峨野 雅彦、長谷川 行彦、村島 正章

(オブザーバー) 上原常任理事 (途中より)

(事 務 局) 佐川事務局長 田中職員

欠席者:(委 員) 菊嶋 秀生、芝 京子、永井 香織

<確認事項>

1 前回(10/15)議事録の確認【資料 1】

○前回議事録案が異議なく承認されました(前回同様、メーリングリストで事前送付済み)。

≪事務局より次のとおり修正しました。≫

・長谷川委員が欠席の欄に記載されていますが、出席の誤りです。

<協議事項>

1 本会の今後のあり方の検討について【資料 2】

・会員増強への取組みについてのレポート【資料 2-1】

・組織体制及び運営(活性化)についてのレポート【資料 2-2】

・(一社)神奈川県建築士会の今後のあり方について【資料 2-3】

(前回委員会で議論しましたが、出席委員が少なかったため、担当副会長より改めて説明された後、次のとおり議論されました。)

≪担当副会長≫

・広報誌の毎月発刊は、情報広報委員会でも重い課題です。実行するのであれば、執行部からの正式に依頼をいただきたいとのことでした。なお、実際にどの程度負担がかかるか、議論が始まっています。

SALONは現在 24 頁です。ボリュームを下げて作成しても、発送費や手間が増えることを考えると、コスト増となることも考えられるので、検討が必要です。また、同委員会より、加入メリットを打ち出すならば、事務局等で、建賠及び工賠についてもっと PR すべきとの意見がありました。

【質疑応答】

≪担当副会長≫

・今の状態がどうであるか(会員数 3,000 名が決定的に少ないのか)については、互いに認識の食い違いがあります。例えば、本会の減り方は某大都市圏士会よりも少ないという説明をしたところ、それは、弱気な姿勢であるとの意見も出ました。

≪委員長≫

・参考までに、横浜商工会議所は会員数 15,000 名を目標にしていますが、10,000 名も危うい状態でした。ところが、今月は 19 年ぶりに退会者より入会者が多くなりました。士業の方への入会勧誘(横の連携)に力を入れ、また、会員増強のために外部に業務委託を行ったとのことでした。

【質疑応答】

問：会員が何名いけばよいのですか。

答：当初は具体的な目標人数や会費値上げの要否について議論する予定でした。本件について、来年度の予算及び事業計画に含めるのであれば、スケジュール的に12・1月の委員会で議論する必要があると考えています。

⇒本委員会で予算を議論するのであれば、事務局に長期収支を作成してもらって、それを基に議論することが必要です。また、仮に会費値上げについて会員に理解を求めるのであれば、具体的な数値目標が必要です。退会者を○名抑える、入会者を○名確保するといったようなものが出せるでしょうか。《担当副会長》

《委員長》

・会員増強提案のレポートについては、本委員会で結論を出すのではなく、正副会長・常任理事会等で対応いただくものと認識しています。ただ、会員数を4,000名に増やすのも、かなり大変だと感じます。10年間で黄寿・白寿会員となってしまう方もいますので、その分を考慮する必要もあります。

⇒長寿会員の会費減免を廃止するという考え方もあります。《担当副会長》

《委員》

・支部ごとの会員の入退会状況を把握できていないのも問題です。これがないと、本会と一体となった対応ができません。

⇒会員減少は今に限ったことではないので、私の支部でも会員増強を行ってきましたが、なかなか難しいです。単に入会させれば良いという考え方には賛成できません。《委員》

⇒窓口では極力休会をおすすめしていますが、若い会員さんは居場所がないとやめてしまう傾向があります。成功例として、入会してすぐ青年委員になった方は居場所を見つけて意欲的に活動しています。《事務局》

⇒入会勧誘者がフォローすることが必要です。《委員》

《委員》

・入会勧誘の為に、支部へパンフレットを送付してください。

《副委員長》

・会員増強TFについて連合会はどのように考えているのでしょうか。例えば、建築設備技術者協会では中央がしっかりやっています。

⇒会員数が10万人を切ったことで執行部(連合会)は危機感を持っていますが、単位士会はこれまでもずっと会員増強策を行ってきたので、冷やかな対応だそうです。《事務局》

《事務局》

・加入を義務化することを連合会が国交省に相談しましたが、加入率が低い(1割程度)難しいとのこと。参考までに強制加入団体となっている団体は、元々の加入率が30%程あったとのこと。建築士法で建築士会を位置付けておきながら、フォローしていないことも原因の1つではないでしょうか。

会員増強TFについては、その後連合会より提案等がありませんので、連合会としては妙案がないようです。

(協議事項Iについての議論はいったん中断)

2 平成25年度(一社)神奈川県建築士会補正予算(案)等について【資料3】

《担当職員より資料に基づき説明しました。》

・本件に関連して、次回の支部長・委員長会議(12月2日開催)に次年度の委員会予算及び事業計画書の提出を依頼する予定です。

《事務局長より補足》

・耐震耐力度引当金は、耐震業務を行っていた時に同業務についてミスがあった場合に備えて積立てたものですが、今後同業務を受託することが見込めないため、名称を変更し、広く賠償責任を問われるケースへの引当金(たとえば理事の賠償責任保険加入弁護士費用への充当等)とすることが主旨です。

【質疑応答】

問:運用の実態がないため名称を変更するということですか。

答:はい。広く活用できるようになります。

問:連合会からの助成金について、事務局で使うあてがあるのですか。

答:今のところ、賃借料削減のための環境整備費用(倉庫整理による必要面積削減等)を考えています。

⇒建前上、交付目的は「構成員増加促進」となっていますからそれは不適切です。例えば、会員確保をするために大きな活動をしている委員会へ振分けてはいかがでしょうか。

※パンフレットの作成費用等、会員獲得に繋がる活動費に振分けることとなりました。

○(一社)神奈川県建築士会 賛助会小委員会主催講習会 企画書(案)について【当日配布資料】

《担当職員より資料に基づき報告しました。》

・(一財)神奈川県建築安全協会(以下「安全協会」という)様の協力の下、実施するものです。

○恋するフォーチュンクッキー神奈川県 Ver.について【当日資料配布】

《委員より報告》

・神奈川県観光地を紹介することが主旨です。

(協議事項1の議事再開))

《上原常任理事より資料2-1について説明がありました。》

・日事連の会員増強 W・G にいたので、その資料を参考に作成しました。会員増強は、士会全体で全県的に行うべきものですので、そのきっかけになればと考えています。

・まず、現状把握のためには、「何人入って 何人辞めたか」が分かりやすい資料が必要です。

(上記説明があった後、次のとおり議論されました。)

《委員長》

・インパクのある提案だと受け止めます。本委員会は決定する場ではないので、本日は意見をいただきたいと思います。

《担当副会長》

・広報の強化について情報広報委員会に諮ったところ、隔月発行については委員会内でも同様の考えを持っていました。チラシのフォーマットの統一も含めて具体的には会長の指示或いは理事会で決定があってからになります。

・この場で成案をまとめるのではなく、本日の意見を、さらに執行部案に付け加えていきたいと思っています。

《上原常任理事》

・9月に提案して、まだこの段階です。もう少しスピーディーに議論をお願いします。

・会としてバラバラ感があります。約3,000名の会員がどこで接点を持つかですが、会報誌、HP、CPDが主なものだと考えます。会報誌について言えば、SALON、WESニュース、景観ニュース等ば

らばらに発行しています。この労力を考えると、SALONの毎月発刊も可能ではないでしょうか。

・参考までに、とある全国団体の会員増強 W・G では意欲的な数値目標を掲げましたが、最終的には過去の入会率の平均である低い数値になりました。本会はずっと積極的に動くべきです。

・一生懸命に活動している会員もいますが、例えば、委員会のための講習会になっている等、形骸化している部分もあるのではないのでしょうか。

・常任理事としての名刺をいただいておりますが、会員勧誘の時に士会の名刺があった方が信頼度も増して、勧誘しやすいものと思われます。

⇒名刺は各自で作成するものだと考えています。例えば、支部長の名刺もいただいております。《副委員長》

・そうであれば逆に、自分持ちではあるが、名刺を作成していただき、積極的に入会勧誘やPRを行ってほしいと、会員に呼びかけるべきです。会員増強に特化した委員会を設けて、毎月議論すべきだと考えます。

※12月2日開催の支部長・委員長会議に担当副会長が出席することになりました。

次回は平成25年12月17日(火)午後6時からの開催です。